

# Newsletter

映画英語教育学会 九州支部  
The Kyushu Chapter of  
the Association for Teaching  
English through Movies (ATEM)

第6号

2007 (平成 19) 年 04 月 01 日

映画英語教育学会 九州支部事務局 発行

〒803-0835 福岡県北九州市小倉北区井堀 1-3-5

西南女学院大学 人文学部 八尋春海 研究室

TEL/FAX: 093-583-5720

E-mail: kyushu\_office@atem.org

URL: <http://www.atem.org/kyushu/index.html>

編集: 多賀 亜紀・與古光 宏・浦田 毅彦

## Contents

page 1 巻頭言

page 2 第 11 回 STEM 大会案内 / 第 13 回全国大会案内

page 3 第 4 回関西支部大会誌 / 映画のトピク

page 4 第 9 回支部大会案内 / 映画ショップ

page 5 九州支部会員 出版案内

page 6 新会員自己紹介 / 新役員紹介 / 編集後記

## 「楽しい」のちから

映画英語教育学会 九州支部

支部長 中島 千春 (福岡女学院大学短期大学部)

今は昔、世の中がバブル真只中の頃、私は静岡県三島市という、バブル景気とは縁のない田舎町に住んでいた。当時マイブームだったのが手作り子供服。福岡では、天神に行けばお洒落な子供服がたくさん見つかるのだが、田舎町のこと、気に入るものが中々見つからない。ないなら作るしかない！かなりアバウトな型紙作りから始まり、ミシンかけ、そして昔のポロシャツから取ったワニのロゴを娘のワンピースに縫い付けて...よし、完璧！これが楽しかった。気が付くと徹夜でミシンを踏んでいた。今思えば、「作る」というプロセスの一つ一つが楽しかった。スタイルブックを見ながら、どんな服にしようかとワクワク。布切れが少しずつ洋服の形になっていくのを見てドキドキ。仕上がりを見て、シアワセ。あの頃、全てのエネルギーの源は「楽しくてやっている」という感覚だったように思う。

この「楽しい」のエッセンスが詰まっているのが ATEM 九州支部だ。お馴染みの「映画オタクコンテスト」では、これからどんな映画のシーンが見られるのかと、毎回文字通り、待ちきれない気持ちになる。一方、懇親会名物の「自己紹介」では、出席の皆さん一人ひとりの言葉を聞くことができるのが嬉しい。どんな話が聞けるのか、そして、自分が何を言ってしまうのか、お楽しみの一と時だ。

ところで、私が服作りで得られなかった楽しみが一つある。それは共同で作業をするという楽しみである。しかしながら、ここ ATEM 九州支部には、それがある。大会運営のみならず、著書の

共同執筆、そしてこのニューズレターの編集。忙しい時間をやり繰りしての作業なので苦労もあるが、しかし、皆で力を合わせて何かを作る喜びは何物にも変えがたいように思う。特に教員の場合、普段授業の準備や研究など、どちらかと言うと孤独な作業が多いから、ここでのチームプレイはなおさら貴重な時間を感じられる。

まずは参加して楽しむ、そういう学会があっても良いのではないかな。参加するうちに、「今度は友達を誘ってみようかな？」となり、次は「私も研究発表をしてみようか？」となれば、無論言うことなしである。聞くところによると、映画鑑賞 & 勉強会という新しい企画のアイデアも出ているようだ。そうした会員相互の小さな交流の積み重ねを、支部大会でのワークショップ (例えば、一つの映画について様々な授業活用方法を発表し合う) や、授業での実践へと繋げて行くことができれば何よりだ。「楽しい」は立派に支部活動の原動力となるはずだ。

さて、創刊から 3 年目を迎えたこのニューズレターも、編集長に多賀先生、編集委員に與古光先生、そして浦田先生という新たなメンバーでのスタートを切った。今回はどんなユニークな企画、楽しい記事に出会えるのだろうか？新しいワクワク、ドキドキの始まりだ。

## ■■■■2007年度STEM大会のご案内■■■■

ATEM の姉妹学会である、映像英語教育学会 (STEM) の第 11 回全国大会が、本年も開催されます。本大会へは二人の副会長 (藤枝先生と高瀬) を含み、九州支部 (6 名) と関西支部 (5 名) を中心に、今年も 15 名ほど参加します。ATEM 会員による日本の映画英語教育に関する研究発表も毎回行われており、本年度は大分工業高等専門学校の大木先生が発表されます。STEM は ATEM 会員の参加を大歓迎していただき、ATEM 会員はいつも VIP のようなもてなしを受けられます。会員のご家族の参加も可能ですので、興味がおありの方は積極的に申し込み下さい。なお、参加希望者はなるべく早く支部事務局 (高瀬) までご連絡ください。

**日時： 2007 年 4 月 21 日 (土)**

**午前 9 : 30 受付開始**

(昨年度より、毎年 4 月の第 3 土曜日に変更)

**場所： 慶州 (Gyeongju) の TEMF Hotel**

慶州...釜山から車で 1 時間程度の場所で、京都や奈良のような歴史のある都市 (旧王国新羅 B.C.57・~A.D.935) で、世界遺産としても登録されている。

**宿泊： 慶州 (Gyeongju) 市内の Kolon Hotel**  
(STEM が事前に予約)

**費用：航空運賃 及び**

**宿泊費** (2 泊分で約 1 万 2 千円程度)

\* 大会参加費、懇親会費は共に**無料**。

\* 食事代及び下記の観光ツアー代金は、**全て STEM が負担**

**日程 (予定) :**

**20 日 (金) 11 時 ~ 12 時頃**

釜山港集合後、STEM がチャーターしたバスで慶州(Gyeongju)へ移動。

< 飛行機は時間的に厳しいので船がお勧め！ >

夜： 歓迎会

**21 日 (土) STEM 大会 (終日)**

夜： 懇親会

**22 日 (日) 午前： 観光予定**

**17 時 ~ 18 時頃**

釜山港へ STEM がチャーターしたバスで移動。

**同行者： 交流委員**

(秋好先生、鶴田先生、倉田先生、高瀬)

**諸連絡先： 高瀬 文広**

([kyushu\\_office@atem.org](mailto:kyushu_office@atem.org))

(文責：高瀬 文広)

## ■■■■第 13 回全国大会のご案内■■■■

第 13 回全国大会が、**2007 年 5 月 19 日 (土)** に、沖縄県の**琉球大学** (中頭郡西原町字千原 1 番地) にて開催されます。

大会テーマは「**映画を使って文化の壁を破る**」です。琉球大学教授の兼本 円先生が大会実行委員長をされ、同じく琉球大学教授の山内 進先生により、「消滅の危機に瀕した言語から見た映画メディア」というテーマで特別講演が行われます。山内先生は、『言語教育学入門』(大修館書店) を出版されるなど、応用言語学を言語教育に実践的に取り入れておられる、著名な先生です。

研究発表は、英語での発表が 6 本 (そのうち STEM 会員によるものが 3 本)、そして日本語での発表は 8 本予定されています。また、STEM からは総勢 19 名の研究者が参加されることになっています。

さらに詳しい内容については、学会本部のニューズレターでもご案内する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

(文責：高瀬 文広)

なお、学会等の情報は、

ATEM 九州のホームページ

<http://www.atem.org/kyushu/index.html>

上でもご案内をさせていただいております。新 HP 編集長の鶴田先生が、新しい情報を常に発信しておりますので、是非ご覧ください！

## 第4回関西支部大会ルポ

昨年の8月下旬。ようやく処暑も過ぎた夏の終盤のある日、九州支部でいつもお世話になっている秋好先生より、一通のメールを頂きました。

「関西支部から、『10月に開く第4回支部大会で、どなたか九州支部から発表してくれる方はいませんか?』という話が来ているのですが、與古光先生、いかがですか?」というお誘いに、願ってもないチャンス!とばかりに、二つ返事で、お引き受けする旨のメールをお送りしました。

その後、関西支部長の藤枝善之先生、並びに事務局長の横山仁視先生宛に、ご挨拶を兼ねた発表申し込みのメールを送付。それが晴れて受理された時点で、私の発表が決まりました。

そして、10/21(土)の午前中の飛行機で、伊丹空港から大阪入り。JR大阪駅では、市バス乗り場を見付けるのに少し手間取りましたが、大した遅れもなく、会場校の大阪工業大学へ到着。

受付にて:

(與古光) 「こんにちは。初めまして、九州支部より参りました、與古光と申します」

(受付の先生) 「ああ、例の先生...」

(周りの先生方から、一斉に笑い声)

(與古光) 「れ...例の先生?!」

何しろ、私の苗字は珍しいものですから、聞けば名簿にあった私の名前を見ながら、「何て言われるお名前の先生でしょなあ」などと噂されていた所へ、私本人が現われたのだそうです。

さて、そんな私らしい(?)登場をしてから会場に入ると、『映画「I Am Sam」徹底活用シンポジウム』の真っ最中。なかなか斬新な切り口揃いで、大いに参考になりました。

そして、遠方から参加の私は、支部の皆さんのお計らいで、研究発表の部の最後に登場。『英語の呼び掛け語に見る、敬意表現に関する一考察』というタイトルで、映画『いまを生きる』(1989)からの場面を活用した発表を行いました。

発表は、持ち時間を全て使い切ったところで、何とか終了したため、その後のQ&Aでは、お二人からしか質疑を頂けませんでした。その後の懇親会にて、様々な貴重なご意見や、この発表をさらに発展させるヒントなど、有益なご提案を頂きました。大きな収穫があったと思います。

それにしても、我々九州支部とも甲乙付け難い温かさの、関西支部の皆さん。藤枝先生、横山先生、倉田先生を始め、会場校である大阪工業大学の井村先生にも、本当にお世話になりました。そして、このような機会へ導いて下さった、秋好先生にも、この場を借りてお礼を申し上げます。

この関西支部大会の様子が、支部HPにて紹介されています:

<http://www.atem.org/kansai/page006.html>

私も、2ページ目の最初に登場していました:

<http://www.atem.org/kansai/page005.html>

(文責: 與古光 宏)

## 映画のトリビア vol.06

~ 学生時代と映画 ~

学生時代は、映画を見るには理想的な環境にいた。70年代から80年代は大学が集まり、若者が多い都市には、名画座があった。下宿先の京都もそうであった。一乗寺から歩いて行けるところに、関西一円に名を馳せた『京一会館』があった。一度つぶれかけた映画館を、独立運営的な方法で復活したようなことを聞いた。スピルバーグ監督が世に出ることになる、『激突』などをやっていた。オールナイトとなると、満席で熱気に溢れていた夜が、今では懐かしい。自転車で30分ぐらいの所には『祇園会館』があり、ここは典型的な名画座であり、『アラビアのロレンス』、『風と共に去りぬ』、『ローマの休日』等の定番をやっていた。土曜日の夕方から日曜日の朝まで、オールナイトをよく見たものである。一度、デビッド・リン監督の『アラビアのロレンス』を、一晩で三回連続で見た記憶がある。冬場で枕と毛布持参だった。確か、一回で四時間ぐらいかかったような気がする。

京都のありがたいところは、無料でいろいろな上映会、試写会があることであった。府立文化会館では、当時でも既に商業ベースに乗らないような作品上映があり、そこでアラン・シロト 原作の『長距離走者の孤独』を見た。反体制的ではなく、非体制的なイギリスの怒れる若者たちを描いていた。大学から、歩いて5分でアメリカンセンターがあり、ビデオ映画が見放題であった。ジョン・チャーパー原作のテレビ映画があり、今でも覚えているのは、『O Youth and Beauty』で、不条理感にとらわれたものである。最近、原作を読んだが、その後の日本社会にも蔓延する都市生活者の日常性の憂鬱を描いていたと思う。

お金は無かったが、時間はたっぷりあった学生時代と異なり、今では映画館に行くことはなくなった。全てが、ビデオかDVDで間に合うようになった。映画館で映画を見たのは、ジョーディー・フォスタ 主演の『コンタクト』までである。

学生時代、映画は英語の勉強になると思っていたが、振り返り、語学の勉強に役立ったかと自問すると、全く役立たなかったと断言できる。映画の英語を、一部でも理解できる力があれば、教材として成立していたかもしれないが、そこまで達していなかった。原作か脚本が印刷物として手元にあり、繰り返し読むことができれば、英語力は伸びていたのかもしれない。

(林 裕二)

## 第9回九州支部大会案内

第9回 ATEM 九州支部大会を、下記のように開催致します。会場校である福岡大学は、約2万人の学生を擁し、今年新たに2学科(人文学部教育・臨床心理学科、医学部看護学科)を設立してさらに拡大・拡充を図っている、元気いっぱいの大学です。今年の大会開催日は夏休み最後の時期です。大会後は暑気払いを兼ねて懇親会で大いに盛り上がりましょう。多くの方々のご応募をお待ちしております。

日時：**2007年9月1日(土) 13時より**

場所：福岡大学

住所：福岡市城南区七隈 8-19-1

(地下鉄七隈線福大前駅から徒歩)

懇親会：場所未定。会費¥4,000程度。

### 発表応募要領

申し込み締め切り：**2007年7月10日(火)**

申し込み先：(事務局長 八尋 春海 宛)

・E-mail：kyushu\_office@atem.org

・郵送、FAX：

〒803-0835 北九州市小倉北区井堀 1-3-5

西南女学院大学 人文学部 八尋 春海

電話 & Fax：093-583-5720

### 記載事項：

1. 発表者名(ふりがな)・所属先名・職名
2. 連絡先(E-mail アドレス含む)
3. 発表タイトル
4. 発表概要(日本語発表：日本語で400字、英語発表：英語で200words程度)
5. 使用機器(開催校で準備できない場合もある所以要相談)

\*発表時間は質疑を含めて30分間です。

(文責：秋好 礼子)

## 映画ショッキング vol.06

～クレイアニメの魅力～

今や日本でもすっかり人気定着したイギリスのクレイアニメ、『ウォレスとグルミット』(Wallace & Gromit)。イギリスのアードマン・アニメーションズのニック・パークが制作したシリーズもので、『チーズ・ホリデー』(A Grand Day Out, 1989年)、『ペンギンに気をつける!』(The Wrong Trousers, 1993年)、『ウォレスとグルミット、危機一髪』(A Close Shave, 1995年)に続いて待望の4作目『野菜畑で大ピンチ!』(The Curse of the Wererabbit, 2005年)が2006年3月に日本でも公開された。しかも今までの30分前後の短編とは違い、1時間を超える長編である。クレイ人形を少しずつ動かして撮影するという、コマ撮りによる制作なので、5年半を経て完成した作品であるということにも驚かされる。各作品を注意深く見ると、指紋のような模様が人形の各所に付いていて、手作業で動かしたことが分かるのも面白い。この新作が宮崎駿監督の『ハウルの動く城』をおさえ第33回アニメ賞と第78回アカデミー賞の長編アニメ賞を受賞したことは記憶に新しい。実はシリーズ2作目と3作目もアカデミー賞を受賞しているので、今回で3回目の受賞である。

このシリーズは、「チーズ命」(特にウェンズリーデー・チーズ!)で、かなり「のほほ～ん」とした発明家のウォレスと、その飼い犬(といっても感受性豊かで人間的、飼い主よりもはるかに頭がいい)グルミットを中心とした物語である。グルミットは犬なのでしゃべらないが、趣味が編物で機械工学にも通じており、愛犬家でなくてもグルミットの表情の豊かさには思わずニコリしてしまうだろう。因みにグルミットは2月生まれという設定があり、同月生まれの私にとってはますます親近感が増すのである... (笑)。登場動物もかなり個性的である。その中でもお薦めは2作目のペンギン マグロウ。グルミットとの「ペットの地位争い」は必見のものである。

新作の『野菜畑で大ピンチ!』は長編なので、シリーズものの中では人間が言葉を発する回数が圧倒的に多い。役に立つことわざや、英語テキストでは見られない呼びかけの言葉や表現も多く出てくる。例えば「Every dog has his day」(本編訳では物語の流れで「犬も歩けば賞に当たる」となっている)、「Gromit! You clever mutt」、「Well done, old pal!」、「Thanks, lad.」である。「lad」のひとつで、やはりグルミットは雄犬だったんだ!と再認識。編物や家事が得意な「My Gromit」がほしいと思うのは私だけだろうか...

次のこのコーナーは、篠原一英先生にお願い致します。

(熊抱 ゆかり)

## 九州支部会員 出版案内

### 『映画の中の星条旗』

(八尋 春海 編著 / スクリーンプレイ / 1,500 円)



1999 年に、同社から刊行された『映画で学ぶアメリカ文化』に引き続き、今回も、映画英語教育学会の本領とも言える一冊の登場です。

16 名の著者の内、優に 12 名が九州支部の会員という布陣で、前作から 8 年が経過した最新のアメリカ合衆国の姿を、多彩なジャンルの映画から、余す所無く浮き彫りにしています。前作と読み比べてみれば、アメリカ文化をさらに深く理解出来ることでしょう。表紙帯にもなっている星条旗が目を引き、装丁も凝った一冊となっています。

(文責：與古光 宏)

### 『元気の出るニューヨーク映画講義』

(大木 正明 著 / 海鳥社 / 2,200 円)



ニューヨークを舞台とした 30 作品の映画の解説書です。それぞれの映画のあらすじ、舞台となった名所案内 (写真付き)、テーマ、名セリフと面白表現、そしてこぼれ話と 1 つの作品が詳細且つ丁寧に解説されています。巻頭のニューヨークの地図では、どの映画でその名所が登場したか一目で分かるようになっており、該当の名所やセリフが確認しやすいよう DVD での経過時間も記載されるなど英語学習者の視点に立った工夫もされています。

なお、サンフランシスコを舞台とした 15 作品の映画を解説した『愛と正義の西海岸映画講義 サンフランシスコ編』も続編として既に出版されています。

九州支部会員であり、学会発表でも教育者および英米文化の研究者として映画及び英語教育を熱く語ってくださる大木先生らしさが詰まっています。

(文責：多賀 亜紀)

### 『オックスフォードのスローライフ』

(中谷 安男 著 / 新生出版 / 1,100 円)



在外研究のため、ご家族とオックスフォードで一年間滞在された際の体験をまとめられたエッセイ (随筆) です。イギリスのテニスクラブの仕組みやウィンブルドン観戦など「テニス」を通して、イギリスの風物、生活習慣、国民性などを垣間見ることができます。第 4 章の救急病院での体験談には、日本との大きな違いにきっと皆さんも驚かれることと思います。

本のそでに付いている登場人物のミニ解説からも、人好きと称する中谷先生の彼ら彼女らに対する深い愛情が伺えます。

なお、中谷先生は、4 月より東京理科大学へ移られるため、誠に残念ですが、九州支部を去られることとなります。九州支部創立時から立ち上げメンバーの一人として、また副支部長として、長年この学会を盛り上げるためにご尽力くださった先生に感謝申し上げますと共に、新地でのご活躍を祈念いたします。でも、時々には帰福して、支部大会や懇親会にも顔を出してくださいね…。

(文責：多賀 亜紀)



## 九州支部新会員 自己紹介

(五十音順、敬称略)

### ・篠原 一英 (福岡県立久留米築水高等学校)

高瀬先生のご紹介で、以前からこの学会の活動に関心を持っていました。昨年、STEM の大会に参加するのを機に入会しました。映画を題材として授業で活用しています。皆さんからのご助言がいただければ幸いです。

### ・高橋 直子 (福岡常葉高等学校英語科)

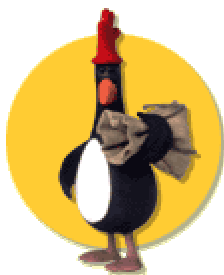
興味関心は交流です。経営学修士で、これまで『国際社会と地球社会』『国際交流の理論』の2冊を出版しました。学校では特進コースを担当し、いろいろなところで学習に関する講演をしています。



ウォレス (Wallace)



グルミット (Gromit)



マッグロウ (McGraw)

\* 今号の「映画ショッキング」に登場!

## 2007年度九州支部役員紹介

支部長	中島 千春	(福岡女学院大学短期大学部)
副支部長	秋好 礼子	(福岡大学)
"	高瀬 文広	(福岡医療短期大学)
事務局長	八尋 春海	(西南女学院大学)
副事務局長	今田 桂子	(福岡国際大学)
HP 編集長	鶴田 知嘉香	(西南女学院大学 <非> )
HP 副編集長	阿矢部 麻里	(福岡市立福翔高等学校)
NL 編集長	多賀 亜紀	(西南学院大学 <非> )
NL 副編集長	與古光 宏	(九州産業大学 <非> )
"	浦田 毅彦	(福岡市立長丘中学校)
運営委員	大木 正明	(大分工業高等専門学校)
"	熊抱 ゆかり	(福岡大学)
"	篠原 一英	(福岡県立久留米築水高等学校)
"	シンディ ドーハティ	(西南学院大学)
"	砂川 典子	(北九州市立大学 <非> )
"	高木 仁美	(福岡大学 <非> )
"	高橋 直子	(福岡常葉高等学校)
"	八尋 真由実	(西南女学院大学 <非> )
会計監査	宮内 妃奈	(福岡女学院大学短期大学部)
	林 裕二	(西南女学院大学)

\* <非> ...非常勤

## 編集後記

- ・ 新編集長として初めての刊行となりました。浦田先生の新鮮な目線と前編集長の與古光先生による丁寧なサポートを得ながら、会員の皆様の「もうひとつの」交流の場となれるようなニュースレターを作成していきたいと思っています。気付いたことや感想などございましたら、ご遠慮なくお寄せください。  
e-mail:akitaga@yk-sun.jp (多賀 亜紀)
- ・ 今年1月からの新体制では、引き続き副編集長として、このニュースレターの編集に携わって参ります。手間暇かけて、細かい作業に没頭するのは楽しいものです。また精一杯努めさせていただきます! (與古光 宏)
- ・ これまではニュースレターをただ楽しみにしていればよかったのが、編集する立場になり、背筋が伸びる思いです。経験者のお二人はアイデアも豊富で頼りになります。たくさん吸収して、無事、務めていきたいと思えます。  
(浦田 毅彦)